

日本の食の安全特別コース

Progress 日本食の安全特別プログラムの現状と展望

今年度は8期生5名を迎え、6期生7名は全員無事に就職し、大学を巣立っていきました。本プログラムを8期生入学まで導いてくださった食品企業、特にコンソーシアム企業、香川県、四国経済産業局のみならずこの場を借りて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。また、カリキュラム関係やインターンシップの準備・受入れに携わってくださった方々、日本文化に触れる機会を提供してくださった方々、また就職をご支援くださった食品企業の方々のご協力なくしては実現できなかったと痛切に感じております。

世界では、イギリスのEU離脱、アメリカの自国優先主義の新大統領の誕生が予定され、移民受入れ反対や国境封鎖など閉鎖的な雰囲気や一方、日本には、海外からたくさんの旅行者が訪れ、和食が世界無形文化遺産に、そして富士山が世界遺産に登録されました。日本のグローバル化社会は文化の違いを受け入れる力をつける時代となってきました。とりわけ、本プログラムの学生は2年間という短期間で日本語を習得する、すばらしい能力の持ち主です。それでも、就職後に社内問題なく会話できるようなったり、報告書を日本語で作成するためには、さらに数年の歳月が必要だと考えます。日本人と同じ程度に上手になるには、まだ勉学の途上にあるといったところです。でも、彼らは日本人に比べて非画一的で自己主張があり個性的な存在です。このプログラムが活用され、外国からの知識人、技能、交流文化が日本社会に定着し、食品企業の色々な現場で彼らが活躍する時こそ本グローバルプログラム教育の重要性が再認識される時ではないでしょうか。(田村教授)

News 日本文化を学ぶ

日本の食の安全特別コースでは日本の文化を体験することができま。7期生は今年の6月から11月まで茶道教室に通っています。お茶をたてたり、四季を表す和菓子を食べたり、四季に関する言葉や学んだり、とても楽しんでます。茶道教室で日本の自然な環境や優しさなどが感じられました。(7期生 アンントン プラワイロ)



Report 第6期生修了式・第8期生入学式

平成28年9月28日(水) 香川大学農学部において第6期留学生の修了式が学内外の関係者の皆様にご列席いただき、厳かに開催されました。長尾学長より7名の修了生に学位記が授与され、片岡研究科長より修了生に向けてお祝いと温かい激励の言葉が贈られました。6期留学生7名それぞれが食品企業(不二製油株・日本食研ホールディングス(株)・ホワイトフーズ・VINIA FOODS CO. OEL Co., Ltd.・連雲港味乃素冷凍食品有限公司)に就職が決まり、今後益々の活躍が期待されます。



10月4日(火)は第8期留学生5名の入学式が農学部において開催されました。長尾学長より歓迎と激励の言葉を頂き、また来賓の四国経済産業局の久保様と不二製油(株)の安達様より心温まるご祝辞を頂戴しました。厳かな雰囲気の中、新入生5名は緊張した面持ちでこれから始まる日本での勉学や生活への期待を胸にお祝い言葉に耳を傾けていました。(片山客員教授)

Report 日本語・英語教育の現状

本コースは、修了時に日本語能力試験のN2レベル(幅広い場面で要旨を把握できるレベル)が要求されており、当初より専門教育と同様に、日本語教育にも力を入れてきました。以下では、本コースにおける日本語教育がどのように実施されているかをご紹介します。

学生は、日本語能力が不可欠であることを、コース紹介の時点から知らされています。合格が確定した学生には、渡日までにN4レベル(基本的な日本語を理解できるレベル)に達するよう指示がなされ、日本語担当教員によるS・S・S面談や学習相談が実施されます。そして、実際に渡日前に同試験を受験させます。

渡日後、学生はレベルや技能別の様々な授業を受講し、基礎力を向上させます。特に渡日直後は、日本語学習に多くの時間を割けるようにコースの時間割が組まれています。その後、必修のビジネス日本語を学び、より実践的な能力を身につけていきます。加えて、日本におけるビジネスに関する知識を、同じく必修の日本ビジネス教育や各種講座、企業との交流会などを通して学びます。これらの機会においては、グループによる活動も取り入れられており、リーダーシップや協調性の訓練もなされています。

このように習得した実力を測るため、学生は年2回の日本語能力試験に加え、年1回のビジネス日本語テストも受験しています。(高水講師)

日本企業で仕事をするために日本語能力はとても重要です。また、近年のグローバル化の進展にもとない、英語能力も重要になってきています。製品の生産や開発、販売等における競争力を維持するために、日本企業は世界各地に広がる顧客や提携先、子会社等との連携やコミュニケーションを密に取ることが求められています。そのため、顧客やビジネスパートナーと英語で効果的なビジネスコミュニケーションが取れなければ意味がありません。日本人学生も留学生もビジネスの世界で通用する英語力を身につける必要があります。(ルーツ准教授)

Profile 第8期生の紹介

- フリガナ
- 氏名
- ニックネーム
- 最終学歴
- 出身国
- 今後の抱負



マハラニフィディヤニルム
Maharani Vidyaningrum
(アリンさん)
ガジャマダ大学卒
(インドネシア出身)

学術的な事を勉強するだけではなく、様々な活動に参加し、日本の生活などについてもいろいろ経験したいと思えます。また、日本の食品会社で働けるように今から一生懸命頑張ります。

メタニートン プレ
Methaneethorn Prae
(プレさん)
アザンブション大学卒
(タイ出身)

私は研究開発者として働きたいと考えています。特に幅広い年代の消費者を対象とした健康食品を開発していきたいです。また、食品業界におけるビジネスについても学びたいです。

シュ ケンリウ
Zhu Jianlong(朱 建龍)
(シュさん)
浙江農林大学卒
(中国出身)

香川大学で日本の文化と日本企業について学習しており、将来的に日本企業に就職できるように勉強をしています。そしてさらに日本語が上手になって、日本と中国の橋渡し役になりたいです。



カ ユシェン
He Yuxuan(何 雨璇)
(ユさん)
浙江工商大学卒
(中国出身)

抗肥満活性成分の探索について研究しています。修士課程では、日本語能力と自身の専門知識を高めたいです。将来は国際的食品企業に就職することを希望しています。

タ マイ チュアン
Ta Mai Trang
(チュアンさん)
ハノイ工科大学卒
(ベトナム出身)

食の安全の分野と日本の文化に興味があるので、日本に留学したいと思えました。日本語を極めてできるだけ多くの日本の企業文化の知識を増やして、将来は日本の食品会社に勤めるつもりです。



7期生中間発表会の様子